

施策番号	2504		
施策名	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備		
概要	にぎわいと潤いのある快適な市街地環境を創出し、魅力あるまちづくりを推進するため、土地区画整理事業などの面的整備手法により、安心・安全で快適な道路や公園などの公共施設を計画的、一体的に整備する。		
担当局・部室	建設局・都市整備部	共管局・部室	
上位政策	25 道と緑		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		25年度	26年度	27年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	道路整備延長率(%)	d	d	80.8	81.6	0.7ポイント増	114.3%	a	1.00
2	公園整備進捗率(%)	e	a	61.3	62.2	1.2ポイント増	75.0%	b	0.50
3	仮換地指定率(%)	e	a	79.7	79.8	0.4ポイント増	25.0%	d	0.50
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		e	b	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		27年度回答					有効回答者数	評価
		そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1	道路や公園などがバランスよく整備され，魅力ある都市空間が増えている。	53	191	168	85	40	537	c
		9. 9%	35. 6%	31. 3%	15. 8%	7. 4%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					26 年度	B
	重み付け	☒ 客観指標	b	☐ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 都市基盤を整備することが重要であるため、客観指標評価を重視する。						26 年度	B
(原因分析) 【客観指標】●道路整備延長率については、道路築造工事が進み、d→a評価へと改善した。 ●公園整備進捗率については、目標値には届かなかったものの、b評価と安定している。 ●仮換地指定率については、権利者との移転補償交渉が整わなかったこと等により、仮換地指定が進まず、a→d評価へと悪化した。 【市民の実感】魅力ある都市空間についての市民生活実感評価は、土地区画整理事業が施行されていない地域の方々に施策の効果を実感していただくのが難しいことから、b→c評価になったと考えられる。						25 年度	D

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		27年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		26年度 決算額	27年度 予算額		
1	組合等土地区画整理事業	15,454	12,712	—	建設局
2	竹田地区土地区画整理事業	6,612	6,727	—	建設局
3	二条駅地区土地区画整理事業	3,198	1,123	—	建設局
4	上鳥羽南部地区土地区画整理事業	214,819	203,474	—	建設局
5	洛北第二地区土地区画整理事業	109,617	9,768	—	建設局
6	伏見西部第二地区土地区画整理事業(水路・H20～)	4,855	8,129	—	建設局
7	伏見西部第三地区土地区画整理事業	191,073	165,815	—	建設局
8	伏見西部第四地区土地区画整理事業	475,936	930,409	—	建設局
9	伏見西部第五地区土地区画整理事業	254,987	954,042	—	建設局
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- 仮換地指定の進捗が課題となっていることから、その前提となる移転補償交渉の進捗を図り、仮換地指定を進展させるとともに、今年度高い評価となった道路整備等についても引き続き進捗管理をしっかりと行っていく。
- 土地区画整理事業施行中の地区について、着実な事業の進捗を図り、市民の方が魅力あるまちづくりを実感するような、にぎわいと潤いのある快適な市街地環境を創出していく。

施策名	2504	まちなのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備				
指標名	道路整備延長率(%)					
担当課	市街地整備課		連絡先	2 1 3 - 3 5 3 7		
1 指標の説明						
土地区画整理事業による道路整備の延長率						
2 指標の意味						
「魅力ある都市空間の形成」に向け、土地区画整理事業によるバランスのよい道路整備の進み具合を示す指標			3 算出方法・出典等			
			算出方法：本市の施行中土地区画整理事業地区において、各年度における道路整備済延長（累計）を計画道路延長で割った率 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	80.8	81.6	0.8ポイント増	0.7ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	114.3%
	全国順位	中長期目標			備考	昨年度、事業計画の大幅な見直し（事業施行範囲の変更等）を実施した地区があるため、目標数値の再設定等を行った。
		数値	目標年次	達成度		
数値		86.0	32年度	94.9%	平成32年度末までの目標とする道路整備済延長をもとに算出	
5 評価基準						
単年度の目標値に対する達成度が、 a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			6 基準説明			
			道路整備の延長率を指標として、各年度での最新数値と目標値の前回数値からの伸び率について、住民との合意形成が前提となることから、これが80%以上となる場合をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。 ※達成度＝(最新数値－前回数値)／((目標値－前回数値)／中長期目標までの残年数)×100			
7 評価結果						
		25	26	27		
		d	d	a		

指標名	公園整備進捗率(%)					
担当課	市街地整備課		連絡先	2 1 3 - 3 5 3 7		
1 指標の説明						
土地区画整理事業による公園整備の面積率						
2 指標の意味						
「魅力ある都市空間の形成」に向け、土地区画整理事業によるバランスのよい公園整備の進み具合を示す指標			3 算出方法・出典等			
			算出方法：本市の施行中土地区画整理事業地区において、各年度における公園用地造成完了面積（累計）を計画公園面積で割った率 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	61.3	62.2	0.9ポイント増	1.2ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	75.0%
	全国順位	中長期目標			備考	昨年度、事業計画の大幅な見直し（事業施行範囲の変更等）を実施した地区があるため、目標数値の再設定等を行った。
		数値	目標年次	達成度		
数値		69.8	32年度	89.1%	平成32年度末までの目標とする公園用地造成完了面積をもとに算出	
5 評価基準						
単年度の目標値に対する達成度が、 a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			6 基準説明			
			公園整備の面積率を指標として、各年度での最新数値と目標値の前回数値からの伸び率について、土地区画整理の進捗状況に左右されることから、これが80%以上となる場合をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。 ※達成度＝(最新数値－前回数値)／((目標値－前回数値)／中長期目標までの残年数)×100			
7 評価結果						
		25	26	27		
		e	a	b		

施策名	2504	まちなのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備				
指標名	仮換地指定率（％）					
担当課	市街地整備課		連絡先	2 1 3－3 5 3 7		
1 指標の説明						
土地区画整理事業による仮換地の指定の面積率 （仮換地とは、事業途中に、事業計画に照らして従前の個々の宅地を再配置すること。）						
2 指標の意味						
「魅力ある都市空間の形成」に向け、土地区画整理事業による良質な宅地供給の進み具合を示す指標			3 算出方法・出典等			
			算出方法：本市の施行中土地区画整理事業地区において、各年度における仮換地指定面積（累計）を保留地を除く宅地面積で割った率 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	79.7	79.8	0.1ポイント増	0.4ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	25.0%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		82.4	32年度	96.8%	平成32年度末までの目標とする仮換地指定面積をもとに算出	
5 評価基準						
単年度の目標値に対する達成度が、 a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			6 基準説明			
			仮換地の指定の面積率を指標として、各年度での最新数値と目標値の前回数値からの伸び率について、住民との合意形成が前提となることから、これが80%以上となる場合をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。 ※達成度＝（最新数値－前回数値）／（（目標値－前回数値）／中長期目標までの残年数）×100			
7 評価結果						
25		26		27		
e		a		d		